

# 令和4年度普及活動アルバム

佐久農業農村支援センター

「夢ある未来にチャレンジ！！健康長寿の里で広げる佐久農業」の実現を目指し普及活動に取り組みました。

重点課題として「葉野菜産地における持続型経営モデルの検討」と「低コスト水稻生産と水田作の収益性向上」の2課題を、普及活動課題として5分野10課題を、調査研究活動として13課題を設定し、21人の職員がイキイキと日々の普及活動に励み、農業者と信頼関係を築き市町村等関係機関と連携した課題解決活動を展開し、大きな成果につながりました。



## 【4月】【重点課題】 カッターブレーカーによる排水性向上の効果確認

局地的な大雨による湿害が園芸品目において課題となっています。湿害を回避するため圃場の深い部分にある土壌の硬い層を破碎し、排水性を向上させる「カッターブレーカー」の現地実演会を南佐久で開催したところ、大勢の参加があり、活発な意見交換が行われ、生産者の関心の高さがうかがえました。



## 【5月】【重点課題】 生産者への雑草イネ防除の啓発活動

佐久地域ではお米の品質や収量を低下させる雑草イネが問題になっています。雑草イネは除草剤を効果的に使う、抜き取りを行うなど徹底した防除をしないと撲滅が難しい難防除雑草です。そこで支援センター職員が農薬販売店の店頭立ち、購入に来た生産者に雑草イネの発生が広がらないように啓発を行いました。



### 【6月】【重点課題】

#### 雑草イネ防除対策実証ほ設置

関係機関と連携したプロジェクトチームにより、徹底防除の効果を確認するため実証ほを設置しました。近隣の生産者などに雑草イネの撲滅に向けた活動をPRし、対策への意欲向上を図りました。また、検討会において実証ほ場での対策効果に関係機関と共有し、より一層撲滅への意識を高めました。



### 【7月】

#### りんご「シナノリップ」収穫前管理研修会

立科町で県オリジナル品種「シナノリップ」の収穫時期や着色管理等について研修会を行いました。栽培が始まって間もない品種のため、生産者の関心が高い一方で、日焼け果の発生等が問題となっています。支援センターでは関係機関と連携しながら、課題の解決に努めています。



### 【8月】

#### カーネーションの生産安定に向けた若手生産ほ場巡回研修会

昨年度までの重点課題から継続した取組みの一つである「後継者等の早期経営安定」のため、若手生産者の交流機会づくりを支援しました。お互いのほ場を巡回して、管理方法などについて議論し、技術向上とともに仲間づくりも図っていきます。



**【9月】  
保育園児を対象にプルーン食  
教育活動**

佐久穂町立保育園児 74 名を対象に、佐久地域の特産品であるプルーンのPRをするために、生産者からの話を聞いたり、実際に食べたり触れたりし、プルーンについて学ぶ活動を行いました。多くの園児から甘くて美味しいと言う声が聞かれ、プルーンの魅力の発見につながりました。



**【11月】  
大豆「すずみのり」生産拡大**

佐久地域の大豆生産は単収向上と併せて高品質化が課題です。そこで県オリジナル品種「すずみのり」の導入に向けて栽培適正試験を行いました。大粒の割合が高く収量増加が期待できる結果となりました。今後さらに、排水性向上技術等を組み合わせ、安定生産や生産拡大につなげる取組みを継続します。



**【12月】  
牛群ドックに基づく飼養レベル  
向上**

管内の酪農家 15 戸を対象に乳牛の栄養度や血液成分、飼料の給与設計などに基づいて、乳牛の飼養管理技術の評価、改善する牛群ドックを実施しました。

酪農家毎の課題を抽出し、飼料給与や飼養管理に係る提案を行い、酪農家が改善に取り組むことで、生乳の生産性向上が図られます。



### 【12月】【重点課題】

#### 葉野菜の輪作作物アスパラガス伏せ込み促成栽培の取組

南佐久地域の葉野菜栽培は、土壌病害対策や労働力の活用方法が課題です。解決に向けて輪作物目及び冬場の労働力活用にアスパラガス伏せ込み促成栽培の現地適応性調査を行い一定の結果を得ました。生産者と結果の共有と次作に向けての検討を行うことができました。



### 【1月】

#### 「佐久農村女性のつどい」の開催

新長野県農村女性チャレンジプランの目標達成に資するために、佐久農村女性団体連携会議主催で開催されました。女性農業者約100名が参加し、事例発表や講演会を行いました。3年ぶりの開催でしたが、今までの活動についてお互いに情報交換を行うことができ、有意義なつどいとなりました。



### 【2月】

#### 農業経営継承セミナーの開催

子や第三者への経営継承は多くの経営者にとって課題です。継承する側、継承される側双方に覚悟と十分な準備が必要です。このため、講師を招き、円滑な継承に向けて、実際の事例を紹介いただきながら、研修会を開催しました。経営者、後継者計50名余の参加があり関心の高さがうかがえました。